

CTS1130

張力設定器

CTS1130張力設定器は、CTF型フィードバック張力コントローラに個別、または一斉に設定された設定張力を送信する専用設定器です。



① 特長

■個別、及び一括設定

CTS1130は、CTF1200/3200/1400に個別、または一斉に設定された設定張力を送信して複数台のCTF1200/3200/1400を個別、及び一括設定することができます。

1台のCTS1130で16台までのCTF1200/3200、または14台までのCTF1400（最大56台のコントローラ要素）を個別、及び一括設定することができます。

■デジタル表示

デジタル表示器には、アドレスとその設定張力が表示されます。

'UP'ボタン、及び'SHIFT'ボタンでデジタル表示器のアドレスを変更すると、そのアドレスの設定張力が表示されますので、設定張力の確認が簡単にできます。

■省配線・省スペース化

CTS1130は3個の操作ボタンで設定張力を設定できます。操作ボタンを3個としたので小型・軽量化でき、操作パネルに取り付けるスペースを小さくすることが可能です。

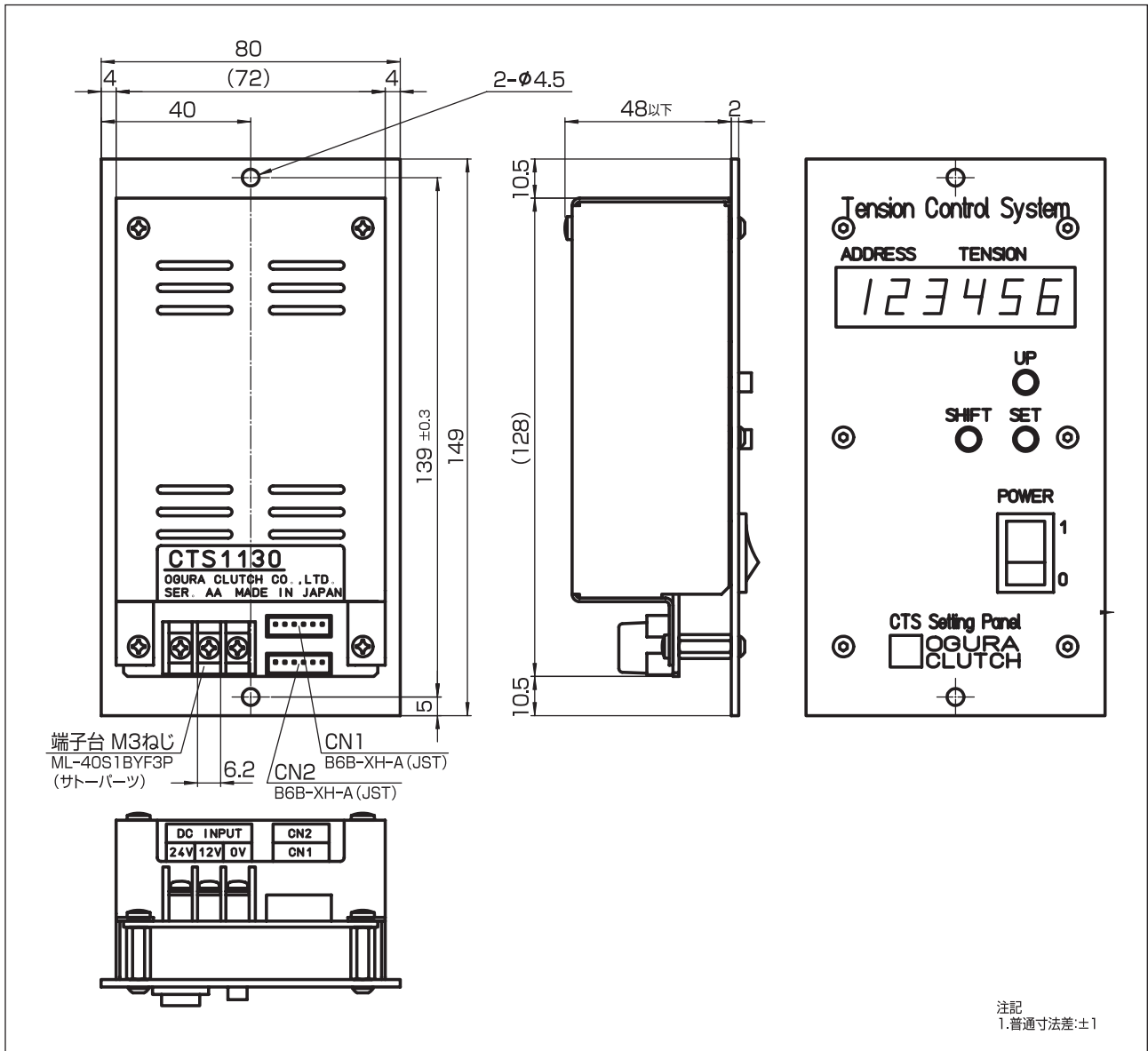
1台のCTS1130で複数台のCTF1200/3200/1400をリモートコントロールできますので省配線が可能です。

② 仕様

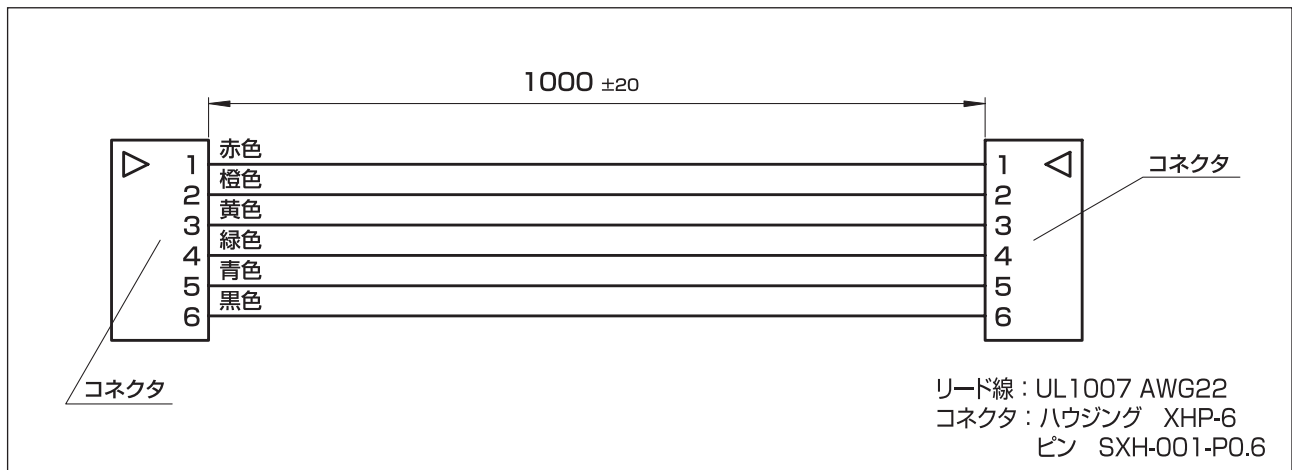
【CTS1130】

- 設定対象……………CTF1200/3200/1400
 - ・16台までのCTF1200/3200を個別、及び一括設定可能
 - ・14台までのCTF1400（最大56台のコントローラ要素）を個別、及び一括設定可能
- 入力電圧……………DC24/12V（選択使用） 電圧変動が±0.1V以下 100mA以下、
またはCTF1200/3200/1400より供給
- 設定入力……………設定張力:0.000～900.0 (N)、張力検出器の容量:0.5～200.0 (N)
- 質 量……………250g以下
- 使用周囲温湿度…-10～60℃ 25～85%RH 結露無きこと
- 保存温湿度……………-20～85℃ 25～90%RH 結露無きこと
- 嵌合コネクタ……CN1,2 設定器ハーネスを使用
- 付 属 品……………設定器ハーネス×1本

③ 寸法



■ 設定器ハーネス (付属品)



④ 動作

- この張力設定器は、CTF1200/3200/1400に設定張力を送信する専用設定器です。
- 入力電圧を印加すると一定時間デジタル表示器が'888888'を表示します。
この状態では内蔵の不揮発メモリから前回の設定値を読み込み、接続された全てのCTF1200/3200/1400にその設定値を送信します。
- その後、デジタル表示器にアドレス'01'とその設定値を表示します。
- デジタル表示器の'ADDRESS'には、設定・表示する項目を表示し、'TENSION'には、その項目の設定値を表示します。
- デジタル表示器の'ADDRESS'には、2桁の設定項目の識別コード、または通信アドレスに対応する数字を表示します。
通信アドレスはCTF1200/3200/1400のアドレス選択スイッチの設定値に相当します。
- デジタル表示器の'TENSION'には、小数点以下2桁までの4桁の設定値をN(ニュートン)単位で表示します。
- 'ADDRESS'表示が'01'~'56'の状態を設定操作を行った場合は、この時の表示値と通信アドレスが一致するCTF1200/3200/1400に設定値を送信する個別設定になります。
- 表示が'00'の状態を設定操作を行った場合には、接続された全てのCTF1200/3200/1400について同じ値を設定する一括設定になります。
- 'ADDRESS'表示が'P0'の状態を設定操作を行った場合には、CTF1200/3200/1400に接続するDTH型張力検出器の容量を設定します。

■デジタル表示器

ADDRESS	TENSION	
00	一括	設定張力 単位:N
01~56	個別	
P0	DTH型張力検出器の容量 単位:N	

■表示例

- DTH7210を使用し、通信アドレスが'01'、設定張力が10.5Nの場合

ADDRESS	TENSION
0 1 1	0 . 5 0

■設定値の表示

- 'UP'ボタンを押して離すとデジタル表示器の'ADDRESS'表示が'00'→'01'→'02'→'03'... '16'→'P0'と変化し、'TENSION'にその設定値を表示します。
- 'SHIFT'ボタンを押した状態で'UP'ボタンを押して離すとデジタル表示器の'ADDRESS'表示が'16'→'15'→'14'→'13'... '00'→'P0'と変化し、'TENSION'にその設定値を表示します。

■設定値の変更

1. 設定を変更したい項目がデジタル表示器の'ADDRESS'に表示されている状態で、'SET'ボタンを押して離すと、デジタル表示器の'TENSION'の特定の桁が点滅し、セットモードに入ります。
2. 'UP'ボタンを押して離すと点滅している桁の数字を+1します。
'9'の次は'0'になります。
3. 'SHIFT'ボタンを押しながら'UP'ボタンを押して離すと点滅している桁の数字を-1します。
'0'の次は'9'になります。
4. 'SHIFT'を押して離すと点滅する桁が1の桁→10の桁→100の桁→1000の桁→1の桁の順で切り替わります。
5. 'UP'ボタンと'SHIFT'ボタンを使用して所望の設定値に合わせ、'SET'ボタンを押して離すと点滅が終了し、セットモードを抜けます。
ここで設定した値は内蔵の不揮発メモリに書き込まれ、電源をオフしても保存されます。
6. 設定張力のセットモードを抜けると、CTF1200/3200/1400が設定張力を読み込みます。

■DTH型張力検出器の容量の設定

1. 'PO'がデジタル表示器の'ADDRESS'に表示されている状態で、'SET'ボタンを押して離すと、デジタル表示器の'TENSION'の特定の桁が点滅し、セットモードに入ります。
2. 設定値の変更と同様な操作でCTF1200/3200/1400に接続するDTH型張力検出器の容量をN(ニュートン)単位で設定します。

3. 設定例
DTH5210:容量5.0Nを使用する場合

ADDRESS	TENSION
P 0 0 0	5 . 0

⑤ 使用上の注意

1. 電源を端子台から供給する場合は、市販のスイッチング電源等の安定化電源を使用して下さい。
当社製OTPF/H型クラッチ・ブレーキ用電源は安定化されていないので使用できません。
2. 運転開始前に必ずDTH型張力検出器の容量を使用する機種に応じて設定してください。
3. 設定張力は、999.9Nまで設定可能ですが、DTH型張力検出器の容量を超える範囲では使用できません。
4. 複数台のCTF1200/3200/1400を接続する場合は、端子台からDC24VまたはDC12Vを供給して下さい。
5. 電源をCTF1200/3200/1400から供給する場合は、POWERスイッチがオンの状態でCTF1200/3200/1400の入力電圧を印加して下さい。
6. 電源を端子台から供給する場合は、POWERスイッチがオンの状態でCTF1200/3200/1400と同時、またはCTS1130を先に入力電圧を印加して下さい。
7. CTF1200/3200/1400との接続は必ず電源が遮断状態で行って下さい。
8. CN1、CN2の各ピンは内部で並列に接続されていますので、同一仕様で使用できます。
9. 電源入力以外の入出力線は、誘導ノイズ等を防止するために、高圧線、動力線、交流線との平行配線や同一配線を避けて分離してください。
10. 絶縁抵抗、耐電圧試験は、内部素子を破損する恐れがありますので実施しないで下さい。